



1 学習に取り組んでいる主な分野

<input type="checkbox"/> 生物多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 海洋	<input checked="" type="checkbox"/> 防災・減災	<input checked="" type="checkbox"/> 気候変動
<input checked="" type="checkbox"/> エネルギー	<input checked="" type="checkbox"/> 環境	<input type="checkbox"/> 文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 世界遺産・文化財
<input checked="" type="checkbox"/> 国際理解	<input type="checkbox"/> 平和	<input type="checkbox"/> 人権	<input type="checkbox"/> ジェンダー平等
<input checked="" type="checkbox"/> 福祉	<input type="checkbox"/> 生産と消費	<input type="checkbox"/> その他 ()	

2 ユネスコスクールとしての活動の概要

本校は、「かかわり、つながり」を活動テーマとして、ESDを「人間性を育むとともに、他者、社会、自然環境との関係性を認識する教育」と捉え、持続可能な開発および持続可能なライフスタイルについての実践を通して、「体系的な思考力」「持続可能な発展に関する価値観」「コミュニケーション能力」の育成を目標としている。具体的には、エネルギー環境教育、国際理解教育を柱に、「地域のひとや環境に係わる活動」「エネルギー環境に関する課題に係わる教育」「外国語活動、外国語科の学習と関連させた国際理解に係わる学習」を行った。



3 特徴的な活動事例の紹介

○ エネルギー環境に係わる学習

生活科や総合的な学習の時間を中心に、全学年に「エネルギー環境教育」を教育課程に位置づけた学習を行った。低学年では、自然への親しみとエネルギーを大切にしている心情を、中学年では身近なエネルギーと環境問題についての理解を、高学年では地域や大牟田市へと意識を広げながら「省エネ・省資源」「自然環境の保持・美化」への実践と発信を目標に設定し、体験的な活動を通して系統立てた指導を行った。

1年生は、地域の民生委員の方々にあさがおの植え方を教えてもらい、緑のカーテン作りを行った。2年生は、地元の高校生から教わりながら腐葉土作りに取り組んだ。3年生は、地域の民生委員の方々とさつまいもを植え、育てたさつまいもを使って太陽エネルギーを利用し



て調理する体験を行った。4年生は、RDFセンターやエコサックセンター等の施設を見学・調査し、ごみの処理方法や分別方法、地域の取組等を理解し、環境保全について考え、クイズやすごろくを通して全校児童に啓発を行った。5年生は、校区の川の生き物と水質の調査を行った。川の環境を守るために自分達にできる身近なことから取り組み、地域の方に協力を呼びかけた。6年生は、石炭産業と共に発展してきた市の歴史と公害、生活環境に配慮した現在の市の施策について調べ、未来の大牟田のために自分達にできることを考えた。自分達が実践するだけでなく、多くの人に実践を広げるために、授業参観や学習発表会、地域との交流の機会に積極的に発信した。



○ 相手意識・目的意識をもって主体的にコミュニケーションを図る国際理解教育

外国語科、外国語活動、英語活動の学習と関連させ、積極的にコミュニケーションを図ることができるような目的、場面・状況等を設定した。4年生は、友達が喜びそうな食材を集めてピザを作る活動を行った。5年生は、自分が将来なりたい職業についてALTに紹介した。6年生は、外国から転入してきた友達におすすめの給食メニューを紹介する活動を行った。相手の伝えたいことを反応しながら聴いたり、自分の思いが伝わるように話したりする経験を通して、日常生活でも相手意識や目的意識をもってコミュニケーションを図ることの大切さを実感した。



3 今後の活動計画

令和8年度も、エネルギー環境教育、国際理解教育を柱として体験的活動や探究活動をさらに充実させていきたい。そのために、以下の点に留意して取り組む。

- 1 全教科・全領域にまたがるESDの実践を通して、PDCAサイクルを確立させながら、令和7年度の実践をさらに高めていく。
- 2 ESDでねらう資質・能力の系統性を意識し、身近な「ひと・もの・こと」とICTを最大限活用するとともに、教師の指導力のブラッシュアップを図る。
- 3 SDG7・11の実現に向けて実践していることを全児童に意識させ、発信する場や方法を提案し、活動を広げていく。